

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105391		
法人名	有限会社 オフィスフジワラ		
事業所名	グループホーム あうん		
所在地	岡山県岡山市東区松新町82-6		
自己評価作成日	平成27年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105391-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず、一年間、職員の異動なく同じメンバーで共に仕事が出来た事を評価したい。
職員全員がそれぞれ自己評価をし、それを事業所全体としてまとめた自己評価であるが、1年に1度の自己評価の要請に、今年度も全員が応えてくれた。
また、事業所として次の理念を大事にしている。◎利用者一人ひとりが、居心地よく自分らしくしていただける生活の支援を行う。◎家族の方とは、日頃から意思の疎通を心がけ、安心と満足を感じていただく。◎家族の方には、共通の目的を持った理解者となっていきたい。
事あるごとに、理念に立ち返り、日々の支援の中で実践に努めており、職員皆で同じ方向に向かって歩めていると思う。今後も事業所全体での質のアップを図っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、事業所理念を職員全員が口にしやすい意識しやすい表記のし方に改めた。毎回、ミーティングの場で読み上げるなど、共有することに努め、日々のケアの中で、私達が大切にしている事として実践につなげるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者・管理者共に地域住民であり、地縁も厚く、地域との日常的な交流を事業所にそのまま活かすことができている。学校園との交流もあり、幼稚園の七夕会に招待されたり、近隣の保育園児をホーム畑の芋ほりに招待して一緒に楽しむこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護に関する相談を受けることは多い。地域の小学校の総合学習「高齢者、認知症高齢者を知る」の授業講師を請け負ったり、体験学習の受入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。利用者やサービスの状況報告は毎回実施。町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加メンバーであり、意見や情報交換は活発に行われており、その都度、議事録を掲示することで周知もしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや確認したいことが起きた折りには、気軽に連絡を取っている。地域包括支援センター担当者は、毎回、運営推進会議に参加し地域の情報も交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての学習会を行っている。職員間で協議し利用者の危険回避・安全確保のためのやむを得ない場合であると考え、家族には説明同意の上、ベッド2本柵を使用した例があるが、記録が十分ではなかったため、今後の課題としたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの機会を利用して学習会を持った。日々、身体の観察を行い異常の発見に努めている。皮下出血や傷を発見した場合は、原因を考え、介助の方法を振り返っている。利用者への言葉かけの中に虐待にあたるものはないか、問いかけている職員もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会も持ち、制度を活用している利用者が居るので馴染みはある。日常生活自立支援事業については、理解できていない職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者への説明や納得は困難である。家族に対しては、契約時や契約解除の際は丁寧な説明を心がけ、理解・納得をしていただいている。また、改定がある時には、文書で報告をしたり、訪問時に報告し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは来所時や個別の連絡の時に気軽に話していただけるよう務めている。また、運営推進会議が外部者に表せる機会になっている。把握した意見や要望は可能な限り、運営やサービスに活かすよう務めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ユニットごとにミーティングを行い、意見交換を行っている。また、管理者はいつでも意見や提案を聞く姿勢でおり、聞いた意見や提案は、その都度、代表者に報告し反映できるように務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に多くを任せている。給与水準については、介護保険の中で勢一杯応えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者に多くを任せている。研修などに参加する事への援助は惜しまない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が行っている。同業者との交流、相互訪問等行いながら、他所から得た情報を事業所に生かす取り組みも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談を関係づくりの第一歩と考えている。面談時には、アセスメントシートを利用して生活面やライフスタイル、要望を把握し、安心して生活していただくよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談時より、家族の方の困っていることや不安、要望を丁寧に伺うよう務めている。その後、入所に至るまでも、来訪時や電話連絡時に会話を重ねながら関係づくりを図り、安心して利用してもらうように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入所相談の中で、家族が今困っていることや不安、悩みに耳を傾けながら、必要であろう情報を提供したり、他のサービス利用を紹介するなど支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を過ごし、同じ食事を摂り、傍らで一緒に過ごしたりという暮らしの中での関係を築くことができている。手伝っていただく場面では「ありがとうございます」「助かります」と、職員が言葉を掛けている場面は多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念にも掲げているように、事業所にとって大切にしている事である。職員にも、大切な事としての自覚があり、家族とのコミュニケーションや関係づくりに努めている者がほとんどである。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、家族の来訪は、温かく迎え入れ、関係が継続するよう、また来訪していただけるよう務めている。また、家族と、自宅や自宅付近の馴染みの場所へ行ったり、墓参りに行ったりしている方への支援にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しない取り組みはできている。利用者個々の性格や特性を把握し、職員が介入しながら、互いに良い関わりが持てるように努めている。一方、トラブルになりがちな関係もあるので、職員はトラブルに発展しないよう配慮し予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、本人や家族と築いた関係を大切にしている。入院により退所になった方には、会いに行ったり、家族から様子を聞くなど、相談や支援に努めている。また、退所された方の家族が、再々訪ねて来られている事例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの職員が、本人の思いや希望の把握に努めており、自ら表出できない方についても出来るだけ本人の立場になって考える努力をしている。一方、希望や意向を理解しても、叶えられない現実があることへのジレンマも抱えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの聞き取りを行い、一人一人についてのフェイスシートを作成している。シートに盛り込まれた生活歴や馴染みの暮らし方は、日頃のケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での把握はもちろんであるが、日勤・遅出・夜勤出勤時の申し送り時に、一人一人の状態を引き継ぎながら現状把握に努めている。月1回のミーティングも利用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでの職員間での話し合いを元に、介護計画・モニタリングを行っている。また、できるだけ、本人や家族の希望や思いを聞き取り、それを反映した計画作りに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の様子やケアの実践・結果が記入されている。気づきや工夫は引継ぎ書や連絡ノートに記入されることが多く、申し送りやミーティング、カンファ時に情報共有し、実践に結びつけている。介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	孫娘の結婚式の晴れ姿を見せたいという家族の希望に応じて、祖母にあたる利用者を京都までお連れした例がある。その時々生まれる状況やニーズに対して、可能な限り対応するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、必要な方には支援している。入居前から所属している宗教団体や知人からの協力を得ながら、本人の満足できる生活が続けられるよう支援している例がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週、馴染みのかかりつけ医(主治医)の往診を受けている。変調時には、主治医に報告・連絡を行い、指示を受けたり、必要時には受診同行したり、臨時の往診を受けることもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結び、週1回の訪問を受けている。訪問前には情報提供書を送り、気になる事柄や状態については、訪問時に相談しアドバイスを受けている。24時間対応であるので、緊急の相談にも応じてくれ、安心できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し情報提供を行い、医師からの説明を受ける際には家族に同伴している。入院中は、相談員・ソーシャルワーカーと情報交換しながら支援に努め、早期退院に向けても、医療側と相談や話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針について」「看取りに関する指針」として文書化し、入所時に事業所の方針と事業所としてできる事を説明している。尚、実際の看取りの支援が始まる際には、再度、本人・家族の希望や意向を確認して支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応については、随時、確認しているが、学習や訓練を定期的には行えていない。急変時以前の変化に気づけるよう努めている職員がいる一方、実践力に不安を持っている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は夜間を想定しての火災避難訓練を実施した。一人ひとりの利用者の避難誘導の方法についての検討とシミュレーションを行ったが、全職員が実践力を身につけているとは言えない。地域では近隣の住人や運営推進会議のメンバーとの協力体制はできている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	多くの職員が「心がけて対応している」「努めている」と評価しているが、「時に適切でない対応や言葉かけをしている」という反省もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの職員が、心がけ、努めている。重度化して、思いや希望を表出したり自己決定が困難な方には、本人にとっての安心や安楽を考えながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に生活支援に努めているが、「時に職員の都合や業務を優先している事がある」という評価もある。その日をどう過ごしたいかの希望に沿った支援はできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を導入し、清潔で、その人らしい頭髪支援（男性は髭剃りも）を行っている。また、女性利用者には誕生日のお祝いの時、化粧をしたりなど、おしゃれを楽しむ支援をしている。男性利用者の髭剃りが出来ていない時がある事は反省点である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりを担っている栄養士は、本人から聞き取った好みのものを取り入れたり、食事が楽しくなる献立づくりに努めている。利用者と職員は同じ食事を一緒に摂っているが、準備や片づけなどは、利用者のできる事を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し確保の確認と意識づけを行っている。体調や嚥下状態に合わせての食物形態の工夫や量の調整を行い、心疾患や糖尿病の方には悪化させない食事内容の提供など、個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、ほぼ出来ている。自歯を残存している利用者は、週1回、歯科の訪問口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄と、安易に紙パンツやオムツを使用せず心地良い布パンツを使用するという基本姿勢を持って支援している。個々の排泄のサインや排泄チェック表を見てのトイレ誘導を行なうことは勿論、以前の生活の中での習慣を大切にしている支援も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便は日々の課題である。便秘予防のための水分摂取や乳製品摂取などに取り組んでいる。温湯法や入浴、マッサージ等で便秘解消に努めているが、便秘薬でコントロールすることも多い。運動への働きかけは困難な方が多いので、できていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように準備し、利用者の希望や意思を大切にしている入浴支援を行っているが、職員本位の入浴支援になってしまっている場合もある。安全な入浴の支援が一番であるが、入浴中の職員との会話を楽しんでいる利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて支援はできている。居室に限らず、本人が安心できる場所（ホールのソファなど）で、休みたい時に休める環境づくりも行っている。眠れない時には、ホットミルクを提供したり、傍らに寄り添うなど安心できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬については情報共有できるようにファイルしている。薬の内容等についての理解に努めようとしている職員がほとんどである。服薬の変更や追加があった際には介護記録や連絡ノートに記し、その後の様子観察を行なうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできる事や好む事を見つけての役割の提供や嗜好品、楽しみごと、気分転換への支援には努めている。しかしながら、一人ひとりの満足に繋がる日々の支援はまだまだである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見ながら、外気浴や散歩は出来ている。外出については、本人の希望があれば、できるだけ副うようにしている。家族と一緒に外出する機会を持っている方、地域の人の協力を得て毎週外出している方は居る。外出を楽しめる方には機会の提供に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預かり金として管理している。自分でお金を所持しておきたい方は、家族との相談・合意のうえで本人が所持している例、外出時に小遣いに使用している例がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援している。以前は、不穏時に家族への電話を望む利用者がおり、話題を切り替えるなどの支援を行なうこともあったが、現在は希望があれば、支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのユニットごとに工夫し居心地のよい空間づくりができています。不具合があれば、ユニットのチーム全体で考え、柔軟に空間づくりを行なっている。また、利用者の混乱やトラブルに繋がらない空間づくりの配慮も出来ていると思う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫したり、スクリーンを利用することで、共有空間の中での一人一人の居場所を作ることはできている。気の合う方同士が過ごせる空間づくりや、反対にトラブル回避のための空間づくりも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでもらうようにしている。居室で過ごす事が多い方については、家族の写真を飾ったり、好みの音楽を流すなど、温かな居心地のよい空間づくりを工夫している。居室内に物があると混乱に繋がる方には、空間のみ提供し、ホールでの居場所づくりを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の看板設置やトイレの目印など、わかる工夫をしている。また、エレベーター利用者のために、分かりやすく「開」「閉」のシールを貼るなどの工夫もしている。		